

「豊かな心と体を育み，自ら学び合う児童の育成」

～栄養教諭を中核とした，食に関する指導を通して～

I. 研究の内容

1. 研究仮説

学習活動において、望ましい食生活・食習慣への意識を高め、学び合う活動を取り入れれば、食に関心を持ち、自ら進んで心と体の健康を高め、学ぶ子どもが育つだろう。

2. 研究の具体的内容と方法

- (1) 『食』に視点を当てた授業研究と授業実践
- (2) テーマに関わる理論学習
- (3) 『食に関する指導』の年間指導計画に基づいた実践
- (4) 外国語活動の研究
- (5) 特別支援教育の研究
- (6) 教育課程の学習会

3. 研究実践

(1) 学習会

「各教科等における食に関する指導の展開」

講師 山梨県教育委員会スポーツ健康課指導主事 秋山知子先生
峡東教育事務所 小林俊彦指導主事

「外国語指導についての学習会」

講師 峡東教育事務所 原 喜雄指導主事

「通常学級にいる軽度の発達障害（疑いのある）児童の支援の仕方」

「特別支援の子どもがいるクラスでの授業作り」

講師 新しい学校づくり推進室 岡 輝彦指導主事

(2) 各学年の食の年間指導計画と食に関わる体験活動例

栄養教諭と各学年担任が連携し、昨年度作成した食に関わる年間計画をもとに指導を行った。また実践したあと計画を見直し、来年度のための資料とした。

(3) 食に関わる月別指導資料

栄養教諭が低学年・中学年・高学年に向けた3つの指導資料を毎月発行し、資料を担当が学級で活用した後、各家庭に配布した。

(4) 授業研究

ア 低学年ブロック（食教育）の研究

3学年授業研究「毎日の健康と生活」

中根絵里教諭・早川貞子栄養教諭

イ 高学年ブロック（外国語活動）の研究

6 学年授業研究「できることを紹介しよう」

小林由紀子教諭・フレッドA L T

(5) 授業公開

1 学年授業実践「『いただきます』ということ」

広瀬 美穂教諭・早川貞子栄養教諭

2 学年授業実践「旬の野菜を食べよう」

廣瀬みどり教諭・早川貞子栄養教諭

4 学年授業実践「よくかんで食べよう」

山宮 武徳教諭・早川貞子栄養教諭

5 学年授業実践「お米から学習を広げよう」

山縣 重人教諭・早川貞子栄養教諭

6 学年授業実践「楽しい食事を工夫しよう」

小林由紀子教諭・早川貞子栄養教諭

すみれ・つくし学級授業実践「お正月を楽しもう（七草がゆを食べよう）」

武井麻子教諭・相川和彦教諭・早川貞子栄養教諭

II. 成果と課題

1. 成果

- ・ 学び合う活動が取り入れられ、食の関心を大いに高めたと思います。
- ・ 本校に栄養教諭の先生がいてくださることを有効に活用できた研究であったと思う。日常的な取り組みに加え、学習活動において学び合う活動を取り入れることで、食や心の健康について意識が高まったと思う。
- ・ 児童の学校農園の栽培活動と関連づけながら食育の授業が行われ、また栄養教諭の先生の専門的な補助を頂くことにより、子ども達の関心を高めることができた。
- ・ 頭では望ましい食生活について理解できている子どもたちであるが、授業の中で栄養教諭が視覚に訴える資料を提示したり、自分たちの食生活の中から課題を見つけたりすることで、知識が普段の生活の中に生きてくるようになったと思う。
- ・ 昨年度の実践を参考に計画的に実践できてよかったと思う。授業参観で実践すること、さらに家庭との連携を深めることができたと思う。
- ・ 2年間にわたる食育への取り組みにより、子どもたちはもちろん保護者の意識や関心が高まったと思う。栄養教諭の先生から、ねらいとした教材に合った資料等の提供をいただき、子ども達の授業内の活動を活発化することができた。

2. 課題

- ・ 授業実践をする時期を早めに知らせることができなかったこと、見ていただきにくい時期だったことが反省させられる。
- ・ 授業の中で使った資料を今後も有効に活用していく必要がある。
- ・ 短い参観時間でも観察カードを書き、授業をした先生に渡すことを続けていきたい。

III. 成果物

研究授業および授業実践の指導案 8点 食の年間指導計画と食に関わる体験活動例

(研究主任 山縣 重人)